

平成25年6月28日

国立大学法人香川大学農学部助教(環境科学分野、女性テニユアトラック)募集要項

募集の背景

香川大学農学部では、本学のテニユアトラック制度に基づき、任期5年のテニユアトラックポストの助教を公募します。本制度は、若手研究者を任期付きで雇用し、将来に亘って活躍できる農学部の優れた教育職員として育成するため、整備された環境のもとに研究と教育を推進する経験を重ねた後に、教育職員としての適性について公正・厳格な審査を行い、本学講師または准教授のテニユア(任期の定めのない常時勤務を要する教育職員としての身分)を取得させることを目的とするものです。また、本学部の教員のジェンダーバランス及び男女共同参画の観点から、女性若手研究リーダーを育成することを念頭に、女性限定の公募を行います。

採用された若手研究者は、独立した研究室の使用が認められ、研究立ち上げのスタートアップ資金などの援助が提供され、更に、授業および会議などの業務が常勤教育職員より軽減されます。テニユアトラック期間内に所定の業績を上げた場合には、任期の定めのない常勤の教育職員としての身分(テニユア)として本学の講師または准教授に採用される予定です。なお、テニユアトラック制の詳細については、『香川大学教員のテニユアトラック制に関する規程』

(http://www.kagawa-u.ac.jp/somu/kisoku/reiki_honbun/x872RG00000690.html)をご参照ください。

農学部環境生態機能学領域では、里山・里海の物質循環、生物多様性、生物間相互作用および生態系の保全や管理に関する総合的な教育研究体制の発展を目指しており、今回はとくに土壌学や微生物学を基盤に本領域において幅広く活躍することが期待できる人材を募集します。本領域の構成メンバーと研究教育内容については農学部のホームページをご参照ください。

1. 公募人員 助教1名(任期5年間)

2. 所属 農学部 応用生物科学科

3. 応募資格

- 1) 博士の学位を有する女性(採用時40歳未満で博士号取得後10年以内の人*)。
- 2) 土壌環境分野で、土壌化学・土壌物理学・土壌微生物学等を基盤に、以下のいずれかの研究を実施しているもの。(1) 土壌生態系における物質循環、(2) 土壌動物および土壌微生物などの生物多様性、(3) 土壌中の動植物・微生物の相互関係、(4) 農業生産・環境修復における土壌の役割。
- 3) 学部および大学院の環境科学関連分野(とくに土壌環境分野)の講義や、環境科学実験I, II および環境科学実践演習をはじめとするフィールドにおける実習や演習を分担し、課題研究の指導ができること。
- 4) 日本語で教育・研究の指導ができる十分な日本語能力を有すること。

*文部科学省テニユアトラック普及定着事業に応募しているため。

なお、着任後は原則的に研究教育に専念していただきますが、本学における男女共同参画推進事業にも携わっていただきます。

4. 着任予定時期 平成26年1月1日以降できるだけ早い時期

5. 提出書類

- 1) 履歴書（別紙様式1，写真貼付）1部
- 2) 博士の学位証明書（学位記のコピーでも可）
- 3) 研究業績等目録（別紙様式2）1部
- 4) 研究業績目録に記載された著書，学術論文及びその他の業績等の別刷またはコピー各1部
- 5) 研究実績の概要（2,000字程度）1部
- 6) 着任後の香川大学農学部での教育及び研究に関する抱負と将来ビジョンについて（1,500字程度）1部
- 7) 応募者に関して問い合わせ可能な者2名の氏名、連絡先リスト

注) 最終候補者には，健康診断書を提出していただきます。
原則として提出書類は選考終了後も返却しません。

7. 選考方法

第一次選考：書類審査。 選考終了後、その結果を e-mail でお知らせします。
第二次選考：面接審査。第一次選考を通過した方を対象として9月頃面接を実施します。
面接の日時，内容などは直接本人に通知します。なお，面接のための旅費は応募者で
ご負担願います。 選考終了後、その結果を e-mail でお知らせします。

8. 応募締切 平成25年8月28日（水） 必着

9. 応募書類提出先

〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸 2393 香川大学農学部
環境科学分野助教（女性テニュアトラック）採用人事選考委員会
委員長 伊藤 文紀 宛

注) 封筒には必ず「環境科学分野助教応募書類」と朱書し，配達証明で郵送願います。
当方より連絡する場合の宛先，電話番号およびE-メールアドレスを明記して下さい。

10. 照会先 香川大学農学部庶務係 電話：087-891-3008 FAX：087-891-3021

11. 参照ホームページ：<http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/>

12. 中間評価・テニュア審査について

採用者は採用後2年経過後に中間評価、5年目にテニュア審査が行われ、合格者は6年目から専任教員として採用されます。中間評価・テニュア審査は、外部委員を含む「選考委員会」により、研究、教育、学部運営及び社会的活動等の活動実績に基づいて行います。具体的な審査内容やその基準は、採用面接時に説明します。

様式1

履歴書（記載例）

写真添付

（上半身最近撮
影のもの）
3.4×4.5 cm

ふりがな かがわ たろう
氏名 香川 太郎
生年月日 昭和〇〇年〇〇月〇〇日（〇〇歳） 性別〇
本籍地 〇〇県
現住所 〒〇〇〇—〇〇〇〇 〇〇県 〇〇市 〇〇町 〇〇番地
連絡先 〒〇〇〇—〇〇〇〇 〇〇県 〇〇市 〇〇町 〇〇番地
 電話 〇〇〇（〇〇）〇〇〇〇 ファックス 〇〇〇（〇〇）〇〇〇〇
 E-メール 〇〇〇@〇〇〇

学歴 平成〇〇年〇〇月 〇〇県立〇〇高等学校卒業
 平成〇〇年〇〇月 〇〇大学〇〇学部入学
 平成〇〇年〇〇月 〇〇大学〇〇学部卒業
 平成〇〇年〇〇月 〇〇大学大学院〇〇学研究科〇〇学専攻修士課程入学
 平成〇〇年〇〇月 〇〇大学大学院〇〇学研究科〇〇学専攻修士課程修了
 平成〇〇年〇〇月 〇〇大学大学院〇〇学研究科〇〇学専攻博士後期課程入学
 平成〇〇年〇〇月 〇〇大学大学院〇〇学研究科〇〇学専攻博士後期課程修了

学位 学士（〇〇学） 〇〇大学
 修士（〇〇学） 〇〇大学
 博士（〇〇学） 〇〇大学 平成〇〇年〇〇月取得

職歴 平成〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇株式会社〇〇研究所
 平成〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇大学〇〇学部助手
 平成〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇専門学校〇〇講師
 現在に至る

賞罰 平成〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇学会〇〇賞

以上のとおり相違ありません

平成〇〇年〇〇月〇〇日

（署名 印）

香 川 太 郎

様式2

研究業績等目録

氏名 香川太郎

1. 著書

書名, 編者名, 執筆の章など(ある場合), 執筆ページ(〇〇-××), 年号, 出版社名.

著者名 (全員)

担当部分についての簡単な説明

※英文の場合、英語で記載 ※別紙記入例参照 (自身著者名には下線。著者名の表記 (大・小文字など) と著者名の区切り「,・」は原文どおり)

2. 学術論文

論文題目, 雑誌名(斜体で記載), 巻番号, 掲載ページ(〇〇-××), 年号. 「査読の有無」

著者名 (全員)

担当部分についての簡単な説明

※博士論文も学術論文に含め雑誌名, 巻番号, 掲載ページの代わりに「博士論文」と記載して下さい。
※英文の場合、英語で記載 ※印刷中のものについては(*in press*)と明記
※別紙記入例参照(論文題目 (大・小文字など) は原文どおり。自身著者名には下線。ただし, 自身が
コレスポンディングオーサーである場合は二重下線。著者名の表記 (大・小文字など) と著者名の区切り
「,・」は原文どおり)

3. 学術講演

発表題目, 学会等要旨名, 掲載ページ, 開催年月日, 開催場所.

発表者名 (全員)

※英文の場合、英語で記載 ※別紙記入例参照 (著書・学術論文に準じた形式で記載)

4. その他 (雑誌記事、調査報告等)

課題名, 掲載雑誌・報告書の名称, 巻番号, 掲載ページ(〇〇-××), 年号.

発表者名 (全員) ※別紙記入例はありませんが, 著書・学術論文に準じた形式で記載

5. 所属学会・学会活動等

学会名, 会員種別, 役職 (例 日本〇〇学会, 正会員, 庶務幹事)

6. 社会的活動

以上

記載要領

1) A4の白紙を縦に使用し横書きで記入してください。

2) 提出資料 目録にかかげた1~4の業績については、すべて資料が必要です。

1 : 当該ページの別刷又コピー 2 : 別刷又はコピー 3 : 講演要旨のコピー 4 : 別刷
又はコピー

(記入例)

1. 著書

- 1 実験化学講座, 四国次郎編, “○○○○○”の章, 150-163, 19XX, 丸善.
著者: 香川太郎 ←※自身著者名には下線。※氏名とその区切り「,・」は原文どおり
担当: “○○○○○”の章(項目)を分担執筆 ←※担当部分について簡単に記載
- 2 Distribution, behavior and load of PCBs in the ocean. PCBs and the Environment, 143-161, 20XX, CRC Press.
著者: Taichi Shikoku, Hanako Ikenobe, Taro Kagawa
担当: データのまとめと考察の大半を担当した。

2. 学術論文

- 1 生物○○○における計測及び○○○の基礎研究
日本○○学会誌, 3(2), 111-118, 19XX. 「査読有り」
著者: 香川太郎, 香川一郎 ←※自身著者名には下線。※氏名とその区切り「,・」は原文どおり
担当: 計画, 実験の大部分のまとめを担当した。
※ 雑誌名は斜体 Vol(No), page-page, year. の順 ※査読の有無の記載 ※担当部分について簡単に記載
- 2 アダプティブコントロールによるグロースキャビネットの試作
日本○○学会誌, 14(4), 131-137, 20XX. 「査読無し」
著者: 四国太一・香川太郎
担当: 製法の部及び全体のまとめを担当した。
- 3 Energy, Plants and Ecology ←※論文題目(大・小文字など)は原文どおり
Canadian Journal of Ecology, 46(2), 12-19, 20XX. (*in press*) 「査読有り」
著者: Ichiro Kagawa, Taro Kagawa, Taichi Shikoku
担当: 全般にわたり共著者と共同した。
※受理済・未刷は (*in press*) を明記 ※氏名の表記(大・小文字など)は原文どおり
- 4 Specific Growth Observed in a ○○-Treated Cabbage
Journal of Agricultural Science, 125 (*in press*) 「査読有り」
著者: T. SHIKOKU and T. KAGAWA ←※自身がコレスポンディングオーサーである場合は二重下線
担当: 研究の企画, 調査及びまとめを担当した。

3. 学術講演

- 1 ○○における△△△の挙動について, 日本○○学会第50回学術講演会要旨集,
p5, 20XX年○月○日~△日, 香川大学農学部.
発表者: 四国太一, 香川太郎, 池戸花子
- 2 Energy, Plants and Ecology. XII International IUPAC Symposium, p 83, 20XX
年○月○日~△日, Pattaya, Thailand.
発表者: Shikoku, T., Ikenobe, H., and Kagawa, T.